

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アルファキッズ菊川駅前		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日		～ 令和 7年 4月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 10日		～ 令和 7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模な事業所なので職員間の連携が取りやすく、支援の内容について児童発達支援管理者等にすぐに相談ができる。	支援会議には児童発達支援管理者と支援員だけでなく、ドライバーさんも参加してもらい、様々な意見を集約している。	始業前にミーティングを行い、利用日のお子さんの情報共有を行う。
2	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型なので学校休業日は未就学児と就学時の交流があるので社会性と協調性が醸成される。	学校休業日は未就学児と就学児と一緒に昼食をとり、片付けまで行って一体感を体験してもらう。	学校休業日に未就学児と就学児と一緒に外出(課外活動)を行う機会を増やしていきます。
3	安心感をもってお子様にご利用いただけていること。	職員や児童同士で交流をもつ時間を大切にしており、人と関わる楽しさや安心感を得られるよう職員が一丸となって努めています。 また、安全面にも留意し、危機管理ができるよう声をかけ合っています。	子どもたち一人ひとりの考え方や感じ方を職員が理解して関わりをもつことで、よりお子様が安心してゆいまるをご利用できると考えています。また課題等に関しても小まめに共有し、共通理解に努めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	町内会や地域のお店の人との交流の機会が少ないこと。	地域コミュニティの重要性を職員全体で意識しておらず、交流方法を充分模索していなかった。	地域のお店には利用者様の昼食やおやつを買いに行く機会があるので、その際にコミュニケーションを積極的に取っていく。
2	ご家族に対してペアレントトレーニングや保護者間の交流・研修会ができていない。	交流を希望されない希望されない保護者様もあり、保護者研修会の開催に職員が消極的になっている。	保護者様に対してペアレントトレーニングの効果・やり方の説明を丁寧に行い、研修会への理周知を図っていきます。
3	第三者委員会など外部の機関を運営に取り入れることができていない。	外部機関とつながれるようにする体制づくりの時間の確保が難しい。	市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをしていきたい。